

---

# 恋とコーヒーと

あさぎ。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋とコーヒーと

### 【Nコード】

N4402B

### 【作者名】

あぢぎ。

### 【あらすじ】

「コーヒーは嫌い。でも、あなたのことは・・・？ねえ、あたしがコーヒーか、どっちが欠かせない？」

こうやって向かい合って、

暖かくゆったりとした時間を過ごすことも、

もしかしたらもうないのかもしれない。

一緒にいることが当たり前になりすぎて、

お互いがどれだけ必要なのかわからなくなっているよね。

あたしはあなたに必要ですか？

あなたの大好きな、

あたしの大嫌いな、

ブラックコーヒーの香りが、

部屋中に立ち込めている。

大嫌いで、絶対に見向きもしなかったコーヒーを、

美味しいって教えてくれたのはあなただった。

ちょっと強引に勧められたから、

最初は嫌いで仕方なかったけど、

今は欠かさず飲んでいる。

あれだけ嫌いだったのに、

好きになって・・・しまったから・・・。

少し大きめのマグカップに口をつけ、

湯気の方こうにあなたを見つめる。

『今夜も遅くなるから。』

『うん。』

何気ない会話も、何だか胸が詰まる。

あなたは気づいていないでしょ。

あたしの想いを。

あたしの覚悟を。

今ものんきに、コーヒー片手に新聞読んで、

いつもと変わらぬ優雅な朝。

こんなに胸が痛んでも、

いつもと変わらぬ穏やかな朝。

今夜、あなたがここに戻ったあと、

どんな顔をしてくれる？

あたしがいないことに気づいて、

少しは落ち込んでくれる？

必死で探してくれたりするのかな？

あたしから、あなたへの反撃。

ちょっとだけ、意地悪になってもいいよね。

コーヒーとあたしと、どっちが欠かせない？

なんてね。

カップの底に、小さく溜まったコーヒーの輪。

苦くて香ばしい……

あたしの……恋の味だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4402b/>

---

恋とコーヒーと

2010年11月5日07時40分発行